

に い が た ろうしきょう NEWS

新潟県老人福祉施設協議会広報誌

2017. 12. 20 NO. 31

巻頭シリーズ・元気な笑顔が素敵！ すまいる介護ウーマン



1

広い中庭を望む建物。右側のアーチ状の建物が印象的だ。左手前には新館があり、すべての建物から四季に変わる樹木を見ることができる。



2

このトイレは市松模様のタイル貼りまで職員の手作り。背の高さや体の具合によって高さが選べる格子型の取っ手など工夫を凝らしてある。

ご利用者と接する時は、自分も元気で楽しく。初めの頃は余裕がなくて笑えなかったのですが、先輩に「自分が笑顔だと相手も笑顔になるよ」と諭されました。くじけそうでしたが、だんだん笑顔が出せるようになりましたね。

■忘れられないこと 牛の角突きを見に行った時のご利用者の目の輝きです。外出を通じ、いつもと違う表情や市内の伝統に触れることができた経験でした。また、菖蒲湯を企画した際に「菖蒲は折って縛って入れるんだよ」と教わりました。そうすると本当にいい香りがしました。ご利用者からは、色々な伝統や知恵を教えていただきました。

■今後の自分 もっとご利用者によりそう仕事ができれば。現場で過ごすのが楽しいし、ずっと続けたい仕事です。

結婚したばかりでユニフォームの名前は旧姓なんです。



笑顔で接すると笑顔が返ってくる。笑顔になるとその人らしさを出してもらえます。

すまいるウーマン 新野理絵さん

○所属 特別養護老人ホーム 小栗田の里 介護職
○経歴 1989年10月小千谷市生まれ
小千谷高校～長岡医療福祉カレッジ(現・長岡こども福祉カレッジ)卒 介護福祉士
2009年4月入社 9月に職場結婚された
○趣味 読書・嵐ファン



3

自慢の青森ひばの風呂。定期的に行われる「お風呂祭」では、様々な企画風呂をスタッフが演出する。



特別養護老人ホーム 小栗田の里

○運営 社会福祉法人 小千谷北魚沼福祉会
○特別養護老人ホーム 82名
ショートステイ 18名
○新潟県小千谷市小栗田2732番地7
TEL0258-83-2100

たいへんですが、やりがいのある仕事です。

■就職の理由 中学の時、デイサービスセンターで就業体験をして、こういう仕事もあるんだなあと。当時、母が祖母を介護する姿を見て、私もお手伝いできたらと思ったこともきっかけですね。今の施設では高校時代、部活でボランティアをしていました。当時からおられるご利用者もいらっしやるんです。学生の時も実習でお世話に。ご利用者に可愛がってもらい、終わる時に「待ってるよ」とか言われてうれしかったです。たいへんな面はありますが、やりがいを感ずるし、頑張れるかなあ、と思って就職しました。

■仕事のポイント 学校で学んだことだけでなく、周囲の方から学んで、仕事の全体像を考える力が必要かなと思います。看護師や栄養士さんとの連携も大事ですね。

老人福祉施設研究総会

期 日

平成29年 9月7日(木)▶8日(金)

会 場

新潟市・朱鷺メッセ



阿比留志郎氏



橋本五郎氏

平成29年9月7日から8日にかけて新潟市朱鷺メッセにおいて第53回関東ブロック老人福祉施設研究総会が開催されました。「創造と発信！社会福祉スペシャリストとしてのプロデュース」～今だからできること今からできること～をテーマに講演会、分科会を行い、研鑽を深める機会となりました。

第一日目の基調報告では、公益社団法人全国老人福祉施設協議会理事・統括幹事の阿比留志郎氏より「現場の声が制度をつくる」と題し、次期介護報酬改定の動向と全国老施協の取り組みについて報告がありました。超少子高齢、人口急減時代の大きなトレンドの中で将来推計人口と医療・介護費の推移をお聞きすると制度改革の内容について、いかにサービスの効率化を図り、持続可能なものにしていくかということが切実な課題であること。私たち事業所にとって、無駄のないサービス提供のあり方、そして介護報酬の適正化が重要であり、今後の動向を注視していきたいとあらためて感じました。

介護保険制度改正・介護報酬改定等については、社会保障審議会介護給付費分科会の論点説明があり、それに対してサービスごとに全国老施協としての意見、要望等を聞くことができ、目指す方向性、老施協の考え方について理解が深まりました。全国老施協として、ご利用者それぞれが願う自立を叶える『自立支援』介護は『自己実現』介護であり、その確立に向けての検証、分析がさらに進み事業所にとって、道しるべとなることが期待できる基調報告でした。

次に記念講演として、読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏より「どうなる日本の政治」と題して講演がありました。その中で、橋本氏が掲載した署名記事のひとつに「心耳を澄まして謙虚な政治」というものがありました。「人の意見に耳を傾け、人を大切にする政治を」と。また、大切にされていた母親の三つの教訓に「何事も手を抜かず全力であたれ」、「傲慢になってはいけない謙虚であれ」、「どんな人でもきらいになってはいけない」、どれも橋本氏の印象的な言葉、心に残る講演でありました。

(副実行委員長 小林 啓一)

アトラクション

アトラクションは、アルビレックスチアリーダーズによるダンスパフォーマンスが行われました。ステージ上での華麗なチアダンスと客席を交えた参加型パフォーマンスは、大変好評で会場を大いに盛り上げていただきました。アルビレックスチアリーダーズの皆さん、ありがとうございました。



第1分科会

科学的介護の実践（高品質サービスの追及）

第1分科会は「科学的介護の実践（高品質サービスの追求）」をテーマに7題の発表が行われました。どの演題も継続的に取り組まれたアプローチに対して何らかの指標に基づいて結果を評価する内容で、根拠に基づいた、まさに「科学的介護」が実践されていました。認知症ケアマッピング(DCM)やユマニチュード技法などの新しい手法へのチャレンジや、幼・老・障一体型の施設、地域に開かれたカフェの併設など地域と一体となった、先を見据えたサービスの在り方を示唆する発表もありました。質疑応答の時間は取れませんでしたでしたが、休憩時間や分科会終了後に参加者や発表者同士で意見交換する姿も見られ、参加された方は大いに刺激を受けていたようです。

運営担当 遠藤 真一

第2分科会

特別養護老人ホームの更なる取組

第2分科会では、「特別養護老人ホームの更なる取組」をテーマとして、7組の発表がありました。発表者の職種も様々で、介護職をはじめ、看護職、管理栄養士、生活相談員、そして管理職など、それぞれの専門的な立場から取り組みを行った具体的な研究内容でした。発表のまとめとして、群馬県の特別養護老人ホーム菱風園の忠地施設長から全体の発表評価や、今後の地域包括ケアの中での特別養護老人ホームの在り方など総評をいただきました。各発表者の皆様もしっかり準備して来られたため、スムーズに発表が進み、時間調整しながら会の進行をいたしました。大変多くの皆様からご参加いただき盛況のうちに終えることができました。分科会運営につきましてご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

運営担当 松田 宏基



第3分科会

介護人材の定着・確保・処遇改善に関する取組

人材確保の重要性はもとより、今いる職員人材をいかに育てあげ、定着を図り、ひいては利用者の生活の質の向上につなげていくかということが大きな課題となっている。

そのような中で今回の発表は、管理者も含めた現場サイドで、どうしたらいいのか？という視点で、人の確保・定着・モチベーション・そして処遇改善に対してのさまざまな取組の発表であり、賞賛に値すると共に、管理者として参考になった点が多くありました。

事務局はじめ関係者の皆さんの準備から当日のおもてなしを込めた対応と行動に対して、心より感謝いたします。

運営担当 渡辺 勝

祝

第3分科会で発表された**特別養護老人ホーム八色園様**が平成29年度全国老人福祉研究会議 高知会議にて**最優秀賞**に選ばれました！

10月17日・18日に開催された平成29年度全国老人福祉施設研究会議 高知会議の第3分科会において特別養護老人ホーム八色園様が最優秀賞に選ばれました！

第3分科会「人材課題先進分野としての介護（実践と挑戦）」

発表テーマ：NewFaceは原石！？～施設みんなで取り組んだ人材（人材）育成～
八色園様の更なるご発展を心よりお祈り申し上げます。

第4分科会

ニーズに応じたサービス内容の見直し

第4分科会のテーマ「ニーズに応じたサービス内容の見直し」として、全7題が発表されました。発表者の熱いメッセージと、これから自施設のサービス提供の参考にしようとする参加者の皆さんの発表内容をひと言も聞き漏らすまいとする真剣な眼差しや、盛んにメモを取る姿が印象的でした。

また、発表者の施設の上司や同僚が発表の応援に来たりと、とても熱いものとなり、来年の千葉県開催の会場「幕張メッセ」で再会できますよう祈念しながら閉会しました。

運営担当 中野 正昌

第5分科会

介護予防、自立支援の徹底による在宅サービスの機能強化

「介護予防、自立支援の徹底による在宅サービスの機能強化」をテーマとした第5分科会では、主に第7期介護保険事業計画の要となる地域包括ケアシステムの構築に主体的な役割を担う地域包括支援センターをはじめとした在宅支援(通所介護)事業所が、地域における様々な環境での個々の自立支援並びに地域住民に向けた積極的なアプローチ(アウトリーチ)活動についての取組みを図表や写真を使用し具体的に参加者が理解しやすいように7事例が発表され、今後の各事業所の第7期介護保険計画における在宅支援への関わり方について参考となる分科会となった。

運営担当 松井 裕

第6分科会

養護・軽費・ケアハウスで支える地域福祉と介護

「養護・軽費・ケアハウスで支える地域福祉と介護」をテーマに発表が行われました。①自己選択・自己決定、生涯現役、②満足のいく最期を自らプロデュース、③入居者確保、④生活支援、地域のニーズ、⑤アウトリーチ、入口支援・出口支援、⑥全室個室、トイレ・洗面台付きの6つのキーワードを切り口として、各施設・事業所の先駆的な取組みの事例紹介やこれまで積み重ねてきた実践と成果を発信していただきました。

改めて、養護・軽費・ケアハウスの役割や重要性に対する理解を深める機会となり、また「専門的支援機能の強化」「伴走型支援」「ソーシャルワーク機能」「施設機能の向上」といった今後の方向性・行動指針が確認できました。

運営担当 菅原 正克

第53回関東ブロック老人福祉施設研究総会を終えて

9月7・8日の二日間、新潟市朱鷺メッセにおいて、約1,200人の参加の中、盛大な会となりました。大会の冒頭、全国老施協石川会長より現状の経過報告があり、次年度の制度改正に向けての一致団結を力強く話されました。基調報告では全国老施協阿比留理事・統括幹事より業界動向を、記念講演では読売新聞特別編集委員の橋本五郎氏より政治的側面から見た福祉についてご講演頂きました。二日目は、大会テーマに基づき6分科会で41題の発表が活発になされました。

今まさに社会福祉法人の使命と我々社会福祉従事者の在り方が問われていますが、日々多忙な皆様、それらを振り返る一つの機会となりましたら幸いです。

関東ブロック老人福祉施設連絡協議会の皆様をはじめ、各県老施協のご尽力並びにご参加頂きました皆様のお蔭で、盛況のうちに終えることができました。改めまして、感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



実行委員長

笠巻 淳以 智

特別養護老人ホーム虹の里 園長
一般社団法人新潟県老人福祉施設協議会 副会長



研究総会では、運営スタッフとして現場を確認し、参加者の皆様が広い会場内をスムーズに移動できるよう話し合い、柔軟な対応を心がけました。新潟県老施協の結束力と底力を肌で感じ、貴重な経験を得た2日間でした。

第3ブロック(岡南の郷)
内山 真吾

21世紀委員(大会スタッフ)として参加し、全体会での一般受付係を担当しました。ともに仕事をする中で大会スタッフ間での交流ができたことやスタッフの一員として、こうした大きなイベントの運営に関われたことは非常に楽しく、有意義でした。

第5ブロック(みなかみの里)
引場 秀和

21世紀委員会



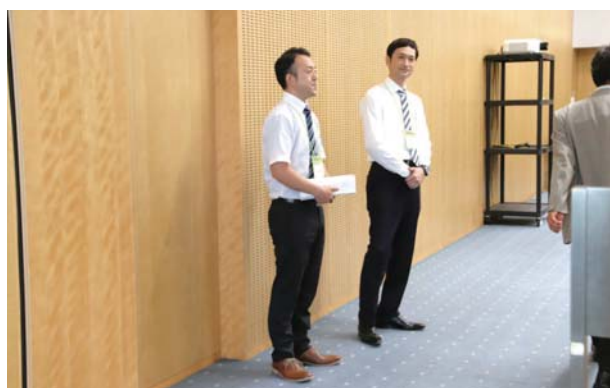
大会スタッフに参加して

第53回関東ブロック老人福祉施設研究総会に運営委員として参加し受付と分科会の会場係を担当しました。県内外から多くの方が参加され、皆様のご協力もあり、会場いっぱいの盛況で役割を終えることができました。たくさんの方とお話しする機会になり、とても有意義な2日間となりました。

第2ブロック(はまゆう)
小出 隆

私は今回21世紀委員として初めて関東ブロック老人福祉施設研究総会に協力委員として参加させて頂きました。分科会では他県の施設の発表を聞ける事も出来て学ぶことが多くありました。日々の業務に活かせることも多くあり、勉強になりました。

第1ブロック(うずらはし)
池田 光



心をつくして人を育む

特別養護老人ホームみどりの園 施設長

目黒美佐江さん

●施設長リレーコラム●



表題は、みどり心育会の理事長が大切にされている言葉です。
特別養護老人ホームみどりの園は、平成27年4月開設の
まだまだ駆け出しの施設です。

開設より今日まで、みどりの園なりのユニットケアを模索しながら、全力疾走有り、少し振り返り止まる事も有り、歌の文句のように一歩進んで二歩下がりがりながらほんの気持ちだけでも前に進めてきたかな・・・と思っております。

本年度より試みましたお誕生日月にご家族様を招待してのお食事会は、想像以上の笑顔が見られました。居室に普段とは違う空間を演出し、ご夫婦2人の時間・親子2人の時間又、ファミリー大勢での時間をすごして頂きました。

初めは照れくさそうに、「貴方はだあれ・・・？」と言わんばかりの表情を見せていた入居者様も、時間と共にご主人と笑顔で話す姿や、食後お茶を飲みながらお母さんの手をささる息子さんの姿は本当に微笑ましく、ファミリーで参加してくださっ

た家族からはたくさんの思い出話を聞き私も一緒に涙してしまい、しばらくお部屋から出れなかった事も有りました。

法人全体で行っている、納涼祭・芋煮会等にも今年は多くの参加が有り、普段はお粥を食べている方が、芋煮会の新米おにぎりを美味しそうに頬張る姿は感動が有りました。「まだまだ出来ることは沢山ある・・・！」その方の出来る事へのお手伝いを私達職員はこれからも積極的に行い、いつまでもたくさんの笑顔を見て行きたいと思えます。

みどりの園の運営理念には、ご利用者様の安心・ご家族様の安心・地域の皆様の安心と3つの安心の文言が有ります。冒頭の野崎理事長の言葉～心をつくして人を育む～人の人を思う気持ちが人を育て、人が育つことによって良い環境が生まれる。そんな環境作りにこれからも努め、職員と共に3つの安心を感じて頂ける場所になって行きたいと思っております。



平成29年元旦 突如！みどりの園に神社が現れました。大勢の参拝客でにぎわいました。



職員扮する、獅子舞にガブリ！

納涼祭！ビール片手にカンパウイ！



納涼祭！保育園の先生の威勢の良い太鼓・・・！これから盆踊りが始まりです！



干し柿作り。昔取った杓柄、さすがです！

事業所所在地	新潟県五泉市村松甲5551番地1
運営事業者	社会福祉法人みどり心育会
事業所の種類	地域密着型特別養護老人ホーム
定員	29名
連絡先等	

TEL 0250-47-5700
FAX 0250-47-5711

発行所 一般社団法人 新潟県老人福祉施設協議会
新潟県新潟市中央区上所2丁目2-2 新潟ユニゾンプラザ2F
電話 025-281-5534 発行人 高橋是司
にいがたろうしきょう NEWS 平成29年12月20日発行